

夏目漱石顕彰

第29回「草枕」国際俳句大会

「草枕」の玉手箱

（入賞作品集）

The 29th International “Kusamakura” Haiku Competition
Prize-Winning Haiku Magazine

目 次

実行委員会委員	1
ごあいさつ	2
選者略歴	3
入賞作品と講評	
・事前投句一般部門	4
・インターネット投句部門	7
・ジュニア部門	9
・外国語部門	13
・写真俳句部門	19
・当日投句部門	22
くまもと俳句ポスト	25
大会風景	26
応募者都道府県別集計	27
応募者国別集計	28
大会を振り返って	29

第29回「草枕」国際俳句大会実行委員会委員

名誉会長	大 西 一 史	熊本市長
会 長	岩 岡 中 正	熊本大学名誉教授、(公社)日本伝統俳句協会会長、「阿蘇」主宰
副会長	西 川 盛 雄	熊本大学名誉教授、国際俳句協会会員
”	福 永 満 幸	「水葱」俳句会主宰
委 員	石 櫃 仁 美	(一財)熊本市文化スポーツ財団理事長 【以下50音順】
” (監事)	岡 内 ゆりか	熊本市文化創造部文化政策課 副課長
”	小 野 友 道	熊本大学名誉教授、(一財)熊本市国際交流振興事業団理事長
”	穀 本 純 二	くまもと写真俳句同好会代表、元熊本日日新聞社写真部長
”	富 田 一 哉	熊本日日新聞社文化部長
”	西 口 裕美子	「霏霏II」編集事務局長
”	西 村 泰 三	「松」編集・発行人
”	前 山 光 則	作家
”	光 永 忠 夫	熊本県俳句協会会長
”	村 田 由 美	草枕交流館館長
”	山 口 孝 徳	熊本信愛女学院高等学校教諭
” (監事)	吉 村 隆 之	くまもと漱石倶楽部会長
事務局長	高 峰 武	熊本学園大学特命教授

「草枕」の玉手箱～発刊にあたって

「草枕」国際俳句大会実行委員会名誉会長

熊本市長 **大西 一史**



今年で29回目となる本大会は、国内外から約6,500句のご応募をいただきました。ご参加いただきました皆様に厚く御礼申し上げますとともに、入賞作品を取めました『「草枕」の玉手箱』につきましても、ご高覧いただければ幸いです。

今大会では、当日投句部門において会場にお越しの皆様には500句以上の投句をいただいたほか、また、ジュニア部門に約2,500句、さらに世界67か国から1,100句を超える作品が寄せられるなど、本大会が俳句大会として、世代や国を問わず、ますます広がりを見せておりますことを、大変嬉しく思います。

また、表彰式では、俳誌「知音」代表の西村和子先生をお招きし、「季語で読む源氏物語」と題してご講演をいただきました。ご来場の皆様には、5・7・5の17音に四季を慈しみ、自然を愛でる思いが込められた俳句の魅力が改めて感じられる機会となったのではないかと思います。

早いもので、本大会も来年で30回目の開催となり、さらに、令和8年には漱石来熊130年、令和9年には漱石生誕160年となる記念の年を迎えます。

本市としまして、このような節目を契機に、俳句をはじめとした漱石文化の振興と継承になお一層取り組んでまいりますので、皆様方には、引き続きお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本大会の開催にあたり、多大なるご尽力を賜りました選者の方々をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼を申し上げますとともに、大会にご参加いただきました皆様方の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げまして、発刊のご挨拶といたします。

俳句は共生の文学 ～ 御礼にかえて

「草枕」国際俳句大会実行委員会会長

岩岡 中正



今回の第29回「草枕」国際俳句大会を盛会のうちに終わることができました。御参加の皆さんや大会を支えて下さった、実行委員や選者の皆さん、行政やボランティアの皆さんに、心より御礼申し上げます。

今回は、事前投句一般部門540名（1,886句）、インターネット投句部門223名（418句）、ジュニア部門1,612名（2,467句）、外国語部門は67か国から587名（1,105句）、写真俳句部門36名（81点）、さらには当日投句151名（538句）の多くの方々のご参加をいただきました。とくに外国語部門は、わが国有数の国際俳句大会として特色があります。また、俳誌「知音」代表の西村和子さんには「季語で読む源氏物語」という題で、現在関心が高い話題の講演をいただき、楽しく学びました。

漱石来熊100年と中村汀女顕彰を目的にはじまったこの大会も、令和8年には漱石来熊130年の節目を迎えます。令和7年の30回記念俳句大会へ向けて、只今企画中です。よろしく御期待下さい。

今日、俳句（ハイク）は世界中にひろがっています。「国際俳句」から「世界俳句」さらには「地球俳句」とも言われていますが、基本は文学創作のひとつで、創作する人の感動と「自立」と、その思いを伝えあう「共生」の「座」の文学です。今日、さまざまな分断・対立・破壊が進む地球で、俳句は、人間が自然や他者と短い詩形で声を掛け合っつながる共生と平和の文学です。これからも、この熊本発の国際俳句大会をよろしく願います。

選者略歴

事前投句一般部門

いわ おか なか まさ
岩岡 中正
「阿蘇」主宰
(公社)日本伝統俳句協会会長
『春雪』『相聞』『虚子と現代』他

たかの むつ お
高野ムツオ
「小熊座」主宰
(一社)現代俳句協会会長
『萬の翅』『片翅』『蟲の王』c

お がわ はる こ
小川 晴子
「今日の花」主宰
(公社)俳人協会評議員
『花信』『摂津』『今日の花』

にし むら かず こ
西村 和子
「知音」代表 (公社)俳人協会副会長
国際俳句協会理事
『かりそめならず』『椅子ひとつ』他

きし もと なお き
岸本 尚毅
(公社)俳人協会評議員
「天為」「秀」同人
『雲は友』『小』『文豪と俳句』他

インターネット投句部門

にし むら たい ぞう
西村 泰三
「松」編集・発行人
(公社)俳人協会評議員
『三郎塚』

ふく なが みつ ゆき
福永 満幸
「水葱」俳句会主宰
『初鴨』他

ジュニア部門

にし ぐち ゆ み こ
西口裕美子
「霏霏II」編集事務局長
(一社)現代俳句協会会員
『群青い耳』

やま ぐち たか のり
山口 孝徳
「霏霏II」所属
熊本信愛女学院高等学校国語科教諭

まえ やま みつ のり
前山 光則
作家
『ふるさと球磨川放浪記』『ていねいに
生きて行くんだー本のある生活』他

やました し げ と
山下しげ人
「ホトギス」同人
(公社)日本伝統俳句協会熊本県部会長
ふる里俳句館館長
『穴よりも』他

みつ なが ただ お
光永 忠夫
「自鳴鐘」会員
熊本県俳句協会会長

外国語部門

い じり か よ こ
井尻香代子
京都産業大学文化学部教授
京都府連句協会常務理事
『アルゼンチンに渡った俳句』他

よね おか し ゅ り
米岡ジュリ
熊本学園大学外国語学部英米学科教授

にし かわ もり お
西川 盛雄
熊本大学名誉教授
国際俳句協会会員
『漱石の英詩におけるポイエティクス』
『俳句は国境を越えて』他

にし まき いさむ
西槿 偉
熊本大学大学院人文科学研究部教授
『中国文人画家の近代 豊子愷の西洋美術
受容と日本』他

写真俳句部門

い せり しん いち ろう
井芹真一郎
(公社)日本伝統俳句協会評議員
日本現代詩歌文学館振興会評議員
「ホトギス」同人 『梢風』

こく もと じゅん じ
穀本 純二
くまもと写真俳句同好会代表
元熊本日日新聞社写真部長

当日投句部門

いわ おか なか まさ
岩岡 中正
事前投句一般部門に掲載

お がわ はる こ
小川 晴子
事前投句一般部門に掲載

にし ぐち ゆ み こ
西口裕美子
ジュニア部門に掲載

にし むら かず こ
西村 和子
事前投句一般部門に掲載

事前投句一般部門

「草枕」大賞

草の花まだ鼻輪なき牧の牛

坂上下ヨ子 (熊本県 合志市)

地下水都市・熊本賞

また一つ足場解かるる城小春

平川みどり (熊本県 南関町)

日本航空賞

初秋や音ともならぬ草の雨

安田眞葉子 (熊本県 熊本市)

JAGグループ熊本賞

夕立来て馬の背光る草千里

堀ノ内和夫 (奈良県 奈良市)

福井市賞

永き日を鐘の一打に納めけり

田中 茗荷 (熊本県 熊本市)

松山市賞

星砂を育む島よ銀河濃し

上野恵里子 (熊本県 菊池市)

岩岡 中正 選

特選

何も無きふる里なれど盆踊

西村 孝子 (熊本県 熊本市)

入選

梅干して星のきれいな村に住む

三重野友子 (熊本県 熊本市)

鴨泳ぐ湖のもつともひかる刻

稲田 夏子 (熊本県 熊本市)

八月の胎児は祈るかたちして

寺崎久美子 (熊本県 熊本市)

佳作

空蟬のこの世に爪をかけしまま

木村佐恵子 (熊本県 熊本市)

渾渾と神の水より秋の声

吉田 潮 (熊本県 熊本市)

どこからも鯨見ゆる今日の月

川上世津子 (熊本県 熊本市)

生まれたる鄙にて果てむ鳳仙花

日高まりも (宮崎県 宮崎市)

八月の蟬は血を吐くやうに鳴く

平山紀美子 (熊本県 熊本市)

選評

今年もまた、たくさんの方の多様な投句を楽しく選ばせていただいた。地方発の国際俳句大会らしく、地域の良さに普遍を見出した佳句に出会えた。

大賞の句は、幼い牧牛と「草の花」の取り合わせが可憐。「鼻輪」に注目した写生句。地下水都市・熊本賞の句は、実況中継のように生き生きとした、心弾む句。郷土愛にあふれる。日本航空賞の句は、繊細な詩情。美意識が高い。JAGグループ熊本賞の句は、「馬の背光る」に焦点を当てた、絵になる一句。福井市賞は、「永き日」を「一打に納め」という知的で大らかな、レベルの高い句。松山市賞の句は、「星砂」と「銀河」を取り合わせた、詩情あふれる句。

私が選んだ特選句は、「何も無き」と言いつつも豊かな故郷を詠んだ、郷愁あふれる句。入選句の「梅干し」の句は、「星」との取り合わせ、「鴨」の句は、「もつとも光る」のことばの力、「胎児」の句では、「八月」が力強く、いずれも印象に残った。

小川 晴子 選

特選

一太刀に始む城攻め稲光

角田 宏子 (熊本県 熊本市)

入選

神々も勢子の法被で山を焼く
根開きも飢えて戦火の子の瞳
妖精の宿る木の傍ハンモック

高峰 武 (熊本県 熊本市)
鎌田 誠 (北海道 札幌市)
谷口 裕美 (神奈川県 藤沢市)

佳作

鶴帰る星座のやうに結び合ひ
すり切れしオラシヨの写し草の花
木槿落つ一と日の枷を解くやうに
葺き替へて城脈々と樟若葉
熊本城ならではと聴く蟬時雨

坂田 淑子 (熊本県 熊本市)
千田 道晋 (神奈川県 横浜市)
宮脇 睦子 (福岡県 糸島市)
板倉 孝敬 (神奈川県 相模原市)
高本伊都子 (熊本県 熊本市)

選評

事前投句の「一般部門」の受賞おめでとうございます。本年度も質の高い力作ばかり千八百八十六句の中からの栄えある受賞です。私も重責を感じながら楽しく何回も読み返して選句を致しました。

特選 一太刀に始む城攻め稲光

角田宏子さん

「稲光」の鋭く激しい様子を「城攻め」と表現された事と、「一太刀に始む」の潔い言葉が好きです。

入選 神々も勢子の法被で山を焼く

高峰 武さん

阿蘇山の山焼は是非訪いたい憧れの的です。山焼の迫力と壮大な景色には、勢子さんだけでなく「神々」も加勢されているからと納得しました。

根開きも飢えて戦火の子の瞳

鎌田 誠さん

深い雪が解け春になりましたが、戦争は終わりません。一番弱い幼子達の悲しい表情が伝わってきます。

妖精の宿る木の傍ハンモック

谷口裕美さん

童画の一頁を見ている思いがします。きつとハンモックの周りには沢山の妖精達が遊んだり、ハンモックを揺らしてくれたりしているのでしょう。姿の良い木が目には浮かびます。

岸本 尚毅 選

特選

縁側へ出たき子規めて凌霄花

尾崎千代一 (神奈川県 平塚市)

入選

剥製の嘴とがる西日かな
早にも清正公様の水路かな
草千里銅葉熱に秋深む

丸山 照枝 (熊本県 熊本市)
堀 志朗 (熊本県 熊本市)
村上 重夫 (熊本県 玉名市)

佳作

おぼけの金太吉を出す地藏盆
堂裏に迫る嵐気や蟻地獄
吾輩と名づく子猫のよく懐く
曲水の墨磨る水も阿蘇の水
遠はたた猪の骨打つ斧重し

山本 淑子 (熊本県 熊本市)
岸本 悦子 (兵庫県 西脇市)
墨海 游 (山口県 下関市)
芥川 卓 (熊本県 熊本市)
高桑よしゑ (福岡県 北九州市)

選評

「草の花まだ鼻輪なき牧の牛」は、草の花と子牛の顔を一つの構図に収め、「鼻輪なき」という具体的な様相を加えた。情景がよく想像される。「また一つ足場解かる城小春」は、城の修繕工事が順次終っていく情景を「また一つ足場解かる」で表現した。「城小春」は古風な用法だが、「尻高くはね上げ子犬園小春 星野立子」「踊の手さらひつ、行く街小春 小川辰弥」のような作例がある。「初秋や音ともならぬ草の雨」は中七下五のしつとりとした叙法を評価した。岸本の特選は「縁側へ出たき子規めて凌霄花」をいただいた。「出たき」とあるので、出ようとしても出られないという事情がわかる。「あて」は一見無駄な言葉のようにも見える。だが、百年以上前の子規庵にタイムスリップして、そんな子規がそこにいる姿を思い描いた作者の気持ちは「あて」という一語に託されている。「凌霄花」は、九月に亡くなった子規にとって最後の夏のそれだと思ってもよい。

高野ムツオ 選

特選

市電から始まる旅や一草忌

槻木 俊彦 (熊本県 熊本市)

入選

地球また大きな遺跡鳥渡る 館 健一郎 (茨城県 常陸太田市)
 海原の何も映さぬ長崎忌 山下 勝美 (熊本県 熊本市)
 音立てて百歳の母胡瓜かむ 前田 賢治 (熊本県 熊本市)

佳作

福耳のやうに垂れたる花菖蒲 森永 清子 (福岡県 大牟田市)
 空爆は画面の向かう西瓜切る 有子山俊之 (兵庫県 神戸市)
 日記伏せてのち銀河の深呼吸 畑田 孝子 (熊本県 美里町)
 大西日今も厨に母の椅子 中川 裕子 (熊本県 宇土市)
 引揚げの話に力生身魂 岸原 邦代 (福岡県 岡垣町)

選評

草の花また鼻輪なき牧の牛 坂上トヨ子
 仔牛に鼻輪をつけるのは生後数ヶ月過ぎてからという。牛を制御し扱いやすくするためである。ペンチのようなもので穴を開ける。鼻にあまり神経が通っていないので痛くないというが、麻酔を使わないのでかなり痛がるらしい。

この句の仔牛はまだ、その痛みを知らない。まもなく鼻輪をつけられることもつゆほども知らない。ただ、母牛のかたわらで、自由に振る舞える時間を謳歌しているのみだ。そんな仔牛を野の秋草が小さな花を揺らして見守っている。「まだ」の一言に仔牛への作者の慈しみが溢れる。

市電から始まる旅や一草忌 槻木 俊彦
 一草忌は種田山頭火の忌日。山頭火と市電といえは、関東大震災後、東京から熊本へ戻ったのち、泥酔して市電を止めたエピソードが有名。その後、堂守、そして漂泊と山頭火の新しい人生も始まった。

市電を出発点として日本各地は無論世界中に旅する人々も多いだろう。旅の質は違えども、旅は人生そのものである。編笠姿の山頭火が目につかぶ。
 他にも熊本の風土性や生活感に触れることができる作品がたくさんあった。お礼申し上げる。

西村 和子 選

特選

帰省子のお城を探す遠眼鏡

轟 眞理子 (熊本県 熊本市)

入選

生身魂拳をついて立ち上がる 森山 榮子 (宮崎県 延岡市)
 蒲団干し妻の出掛けて仕舞ひけり 藤堂 邦雄 (京都府 長岡京市)
 カルデラの底を確かめ鶴帰る 加藤 義博 (福岡県 古賀市)

佳作

「其処」までが何処までなのかアッパッパ 柳田 孝裕 (熊本県 熊本市)
 山ひとつ動かすつもり蟬の声 真弓ぼたん (熊本県 熊本市)
 のっけから熊蟬の関雨上がる 後藤 雅章 (熊本県 熊本市)
 落蟬の掃かれて少し動きけり 大津 夕可 (熊本県 熊本市)
 フルートを部屋に返し卒業す 丹羽 早苗 (東京都 世田谷区)

選評

帰省子のお城を探す遠眼鏡 轟 眞理子
 帰省して先ず気にかかるのがお城であるという点に、城下町で生まれ育った人物像が描かれている。それも望遠鏡で探さなければ見えない場所に住んでいることがわかる。故郷への思いを具体的に描写した句。

熊本地震の後の作であることを思うと、帰省のたびに復興の様子が気にかかるのだろうという点も想像できる。

毎年、全国の俳句大会の選句を務めるが、「草枕」国際俳句大会ならではの作品に心惹かれる。熊本や阿蘇を詠んだ句は、遠くに住む選者としては新鮮なのだ。実作者としても改めて自分の住む地の風土と、日常の暮らしの足下から詠みたいと思つたことだ。

インターネット投句部門

「草枕」大賞

黙禱を宣する声や蝉時雨

矢島 章子
(東京都 新宿区)

特選

新涼やさらさら走る硝子ペン

高村 聖恵
(熊本県 合志市)

いもむしが好きでみんなに嫌はるる

貝田ひでを
(熊本県 八代市)

峡谷の空押し上ぐる鯉幟

古山 礼子
(広島県 東広島市)

明珍の風鈴風を搔き鳴らす

澤野 壽一
(千葉県 芝山町)

入選

水温む目高は空を見に浮かぶ

岩水ひとみ
(兵庫県 神戸市)

電車待つ一番ホーム秋の風

中根タミ子
(熊本県 八代市)

郷土紙に包まれ届く夏野菜

加藤 義博
(福岡県 古賀市)

献花台直立不動炎天下

木村 弘治
(大分県 国東市)

昼寝覚刹那女を取り戻す

貴田 雄介
(熊本県 熊本市)

春めきてほのかに甘し今朝の白湯

鈴木 英晴
(東京都 練馬区)

またも見ん棚田に浮かぶ能登の月

岡部 伸子
(神奈川県 横浜市)

夏休み大の字になる祖母の家

渡辺 美穂
(福岡県 筑紫野市)

春宵は千金微醺なればなを

板倉 孝敬
(神奈川県 相模原市)

赤とんぼ母待ち泣いた婆の家

佐藤 博
(神奈川県 相模原市)

選評 西村 泰三

黙禱を宣する声や蟬時雨

上・中で、何かの集りの始まりが想像されます。下五の「蟬時雨」で、その集りが真夏の日中であることが分かります。であるなら、廣島が長崎の慰霊祭か、終戦の日の儀式でとは推察されます。司会者の黙禱と言う声と蟬の声で、光景は幾らでも広がります。日本の八月のある一日を述べた句とも言えます。

峡谷の空押し上げる鯉職

谷間の狭い空を泳ぐ鯉職の光景です。中七の措辞で、鯉職の泳いでいる高さや取り囲む尾根の様子まで、推測される表現です。泳いでいる鯉の様子まで想像されます。

水温む目高は空を見に浮かぶ

私も目高を飼っていましたので、春先になって、水面に浮かんで来る目高の様子は良く知っています。この句のように述べられると、水面で屈折する空の様でなく、直の空を見たかったのかと、あの光景が納得できます。

郷土紙に包まれ届く夏野菜

私事ですが、球磨郡水上村に住む姪が、季節毎に野菜を届けて呉れます。その野菜を包んだり隙間を埋めてあるのは、球磨で発行されている新聞です。数日遅れの球磨の様子を知ることが出来ます。この作者も数日遅れの新聞で、皺を伸ばしながら読み故郷のあれこれを読んで居られるのでしょうか。

選評 福永 満幸

投句数は昨年よりも三割増し。季語のないものを含めて多様の投句があり、日常詠が多く、選も楽しかった。

黙禱を宣する声や蟬時雨

例えば八月六日の広島。八時十五分に黙禱の音が掛かると、みな一斉に低頭し黙禱をする。あとは鎮魂の鐘の音と、しきりに啼く蟬の声。その瞬間を切り取っている。

新涼やさらさら走る硝子ペン

昔はやった硝子ペンが、今またはやっています。硝子ペンは書きやすい。「さらさら」の平凡ともいえるオノマトペが「新涼」に合っている。

いもむしが好きでみんなに嫌はるる

毛のない太ってころころした「いもむし」。手に載せて可愛がっていると、みんなから変人として嫌われる。「じゃんけんんで負けて蛭に生れたの 池田澄子」を彷彿とさせる。

峡谷の空押し上げる鯉職

谷あいの狭い空を押し上げる。力強い鯉職。

明珍の風鈴風を掻き鳴らす

明珍火簀の風鈴、音色は透明感があり涼やか。火簀だから「風を掻き鳴らす」は言い得て妙。








※お問い合わせ先※
『松山はいく』事務局
 所在地: 愛媛県松山市三番町3-9-3 K-13ビル5F
 TEL: 089-945-6445
 受付: 10:00~17:00

正岡子規のふるさと・松山では、まち歩きの「ハイキング」と「俳句」をかけて名づけられた観光まち歩きガイド『松山はいく』が活躍中!! 道後温泉や松山城以外にも遍路体験をしながら石手寺を巡ったり、吟行句を地酒ラベルにしたりするなどオリジナリティあふれるコースをたくさんご用意しています。ご予算やお時間など、お気軽にご相談ください。
 詳しくは、お電話又はHP: <https://matsuyamahaiku.jp> まで。

北海道産の大納言小豆を
一粒ひとつぶ手選別。
大自然の恵み、
阿蘇の伏流水で炊き上げた、
風味豊かな小豆餡で
やわらかな求肥を包みました。

砂糖・大納言小豆・水飴・
餅粉・麦芽糖・寒天・食塩。
七つの自然な材料でつくる
匠の味をご堪能ください。



おかげさまで、創業75周年
75th
 ANNIVERSARY
 since 1949
 ざ・り・が・ど・う

くつろぎのごちそう

お菓子の **香梅**

kobai.jp

【白山本店】熊本市中央区白山1丁目6番31号 TEL.096-371-5081

ジュニア部門

「草枕」大賞

小学生の部

ばあちゃんかわらうおぞうに三ばい目

堀 菜月

(富山県高岡市立伏木小学校二年)

中学生の部

終わらない先生の話セミがなく

齋藤 優

(熊本県熊本信愛女学院中学校三年)

高校生及び十八歳以下の部

セロテープの始まりのなき暑さかな

島崎 結菜

(東京都学習院女子高等科一年)

(公財) JAL財団賞

電柱と遠くの空の入道雲

鄧 雅文

(熊本県熊本大学教育学部附属中学校二年)

西口裕美子

選

特選

ばあていがさいごのぺえじつゆのえほん

舟本 匡吾 (富山県高岡市立伏木小学校一年)

入選

いつからか京に七節生きており

藤内 星七 (和歌山県智辯学園和歌山高等学校二年)

ほきほきといわしのほねまで食べつくす

上田 環 (熊本県熊本市立白川小学校三年)

山笑う青いアルバム見返す日

木村友紀菜 (熊本県尚綱中学校二年)

佳作

車内皆うつむき虹よ我のもの

出口 雅人 (和歌山県智辯学園和歌山高等学校二年)

赤と黒のおししがしやがむあきまつり

清水 太陽 (富山県高岡市立伏木小学校三年)

深夜四時ねむれない冬余震くる

鶴谷 鼓音 (富山県高岡市立伏木小学校六年)

たかくはねたさかなのおもちやなつちかい

満田 禪大 (富山県高岡市立伏木小学校一年)

サイダーを飲み干すまでに告げないと

阿由葉洗太 (東京都東京都立三鷹中等教育学校高三年)

倒立や逆さまになる夏の空

宇井 悠真 (埼玉県開智小学校三年)

公園の片隅にいる雪うさぎ

本田理衣紗 (熊本県真和中学高等学校中二年)

おはかからてんとう虫が五、六びき

坂本将太郎 (福岡県福岡市立照葉はばたき小学校三年)

手つだいはまだまだ続くあせをかく

川端ひかり (富山県高岡市立伏木小学校五年)

白南風が伸びた前髪かきあげる

米満 心愛 (広島県呉市立昭和北中学校二年)

選評

「草枕」大賞の各句は、小・中・高校生の作者の(今)を見事に切り取っていて、唸りました。殊に、全く見通しが立たない、自分を取りまく世界の理不尽さに対する苛立を、猛暑の中でセロテープの始まりがわからないと詠んだ島崎さんの句に強く惹かれました。

入選・佳作の作者の各視点が面白く、感動しました。家に閉じ籠って過ごす梅雨。おそらく何冊目かの絵本。その最後のページには楽しいパーティの様子。沈んだ心が急に明るくなる瞬間です。梅雨明けもそろそろの感があって素敵な舟本さんの句。藤内さんは、木の枝に擬して生き抜く七節を詠みました。目立つことなく生きるということが今の高校生活を円滑にするコツなのかもしれません。長い歴史をもつ京に生き続ける七節。その設定が見事でした。擬音語を上手に使った上田さんの句。鯛のおいしそうなこと！青は、「青い鳥」のように幸せの象徴でしょう。写真を眺める木村さんも山も笑う幸せな時間です。

前山 光則 選

特選

陽がねこの寝顔を照らす終戦日

宮崎 胡翠 (大分県大分市立大在小学校六年)

入選

君だって家出もしたからかたつむり

矢澤 袴子 (熊本県熊本信愛女学院高等学校三年)

宿題がすんで風鈴鳴りわたる

高田竜乃介 (熊本県荒尾市立府本小学校六年)

振らないでサイダーのような告白を

黒木 美沙 (熊本県熊本信愛女学院高等学校一年)

佳作

サンタさんひっこししたうちわかるかな

岩坪由葦子 (富山県高岡市立伏木小学校二年)

朝顔が一番早起き夏の朝

田中 希実 (熊本県真和中学高等学校中二年)

「じゃまするな」しっぽではたく炬燵猫

川崎 春香 (東京都世田谷区立砧中学校三年)

祖母の顔小さな背中送り盆

山本 海帆 (熊本県尚綱高等学校一年)

冬に入る郵便ポストあざやかに

森山 文結 (宮崎県延岡学園尚学館高等部一年)

求人票自分と向き合う夏休み

長野 良虹 (熊本県熊本信愛女学院高等学校三年)

春風を味方に扉開ける今日

畑田ひなた (熊本県熊本市立北部中学校三年)

呼びとめて振り向く君は林檎色

松浦 芽生 (熊本県尚綱高等学校三年)

ごみを拾ったふくろが重いつゆの決

沙 綾音 (富山県高岡市立伏木小学校四年)

におっても励んだ証夏の汗

上村虎之介 (熊本県熊本市立北部中学校三年)

選評

「終わらない先生の話セミがなく」齋藤 優
真夏、暑い日にいつまでも先生の話が続く、うんざりした気持ちだが「セミがなく」によってうまく表現されていますね。

宮崎胡翠さんの特選作「陽がねこの寝顔を照らす終戦日」は、太陽が猫の寝顔を照らすという点に注目してあって、感心しました。戦争は、決してあってはいけない、何でもない、穏やかな猫の寝顔こそが「平和」の象徴なのですね。

矢澤袴子さんの句には、「君だって家出もしたから」と、自分のお家を背負って暮らしている蝸牛へのあたたかな思いやりが溢れています。高田竜乃介君の句の「風鈴鳴りわたる」、これは、なるほど、宿題が済んでほっとしている気持ちが良く出ています。そして、黒木美沙さんの句、軽はずみな告白のことを「サイダーのような」と表現してあり、とても気の利いた比喻ではないでしょうか。

特選・入選・佳作、合わせて十四句。どれも、借り物でない、自分なりの観察や実感や考えがちゃんと表現してあるので、気持ち良い作品になっています。これからも伸び伸びと俳句に親んでもらいたいものです。

光永 忠夫 選

特選

酔いしれてきょうも眠れぬ夜半の秋

生見 昊佑 (広島県呉市立昭和北中学校二年)

入選

夏休み体そう水えいブレイキン

松田 陽 (熊本県水川町立宮原小学校五年)

白道や歩進めるごとの胸の鼓動

濱田 優太 (熊本県熊本大学教育学部附属中学校三年)

足のうらじりじりいたいうみのすな

赤松 紗 (熊本県熊本市立城東小学校二年)

佳作

あと少し夏休みまでもう少し

永野 楓 (熊本県上天草市立松島中学校三年)

水の中水面が光るあゆのかげ

其田 咲葵 (熊本県玉名女子高等学校二年)

お隣の夏手袋の老婦人

水上 麻帆 (東京都習院女子高等科一年)

日暮らしの心に染みる冷奴

寺本 朱希 (熊本県熊本信愛女学院高等学校三年)

ランドセル少し小さくなった春

山崎 菜花 (富山県高岡市立伏木小学校三年)

プリンアラモードのサンプル作る春

角村 昂瑠 (富山県高岡市立伏木小学校五年)

夜遅く家ぬけ出してみた螢

境 一華 (熊本県熊本信愛女学院高等学校一年)

水鏡夏雲に足沈んでく

矢澤 彩乃 (熊本県熊本市立京陵中学校一年)

愛犬の寝息愛しき夏の夜

田代 音彩 (熊本県熊本市立北部中学校三年)

会いたいな会えたらいいな夏祭り

宮崎もも花 (熊本県熊本信愛女学院中学校二年)

選評

○JAL財団賞 「電柱と遠くの空の入道雲」 鄧さん
電柱の列と青空と白い入道雲がくつきりと目に浮かびます。遠近感と色彩の豊かさ
でみことな句に仕上がりました。

○特選 「酔いしれてきょうも眠れぬ夜半の秋」 生見さん
何にうちこんでいるのだろう。それこそ寝食を忘れる程なのだ。まさか、スマホ三
味ではないでしょうね。もしそうなら、程々に。

○松田さん句

オリンピックの新種目での活躍がありました。キミも挑戦しますか。たいへんだ。

○濱田さん句

私達はみんな、心に怒り(火の河)や欲(水の河)があります。人や世間(二河白
道)に流されず、しずかに生きたいものです。

○赤松さん句

待望の夏。泳ぎつかれて浜に上ったものの、あまりの熱砂にはだしが痛いようです。
○全般的にいずれも素直な表現が良いです。締切りに追われて作るのではなく、毎日
の生活のなかで、ふと気付いたこと感じたことを、日記代りにメモしておく、後で
役立ちます。

山口 孝徳 選

特選

新聞で見かけし名字草の花

竿本 啓晴 (和歌山県智辯学園和歌山高等学校二年)

入選

やどかりやいっそ全てを投げ出して

三木陽菜子 (和歌山県智辯学園和歌山中学校三年)

長針の短針を越す夏の果

上松 篤史 (和歌山県智辯学園和歌山高等学校二年)

宿題をちよつとごまかし目高見る

一地 結羽 (熊本県芦北町立佐敷中学校二年)

佳作

夏草や古き墓標の影長く

村上 芽依 (熊本県熊本市立北部中学校三年)

夕立に負けじと走る帰り道

清永 葵生 (熊本県芦北町立佐敷中学校三年)

夏の星眺めて解くわだかまり

園木 琶香 (熊本県熊本信愛女学院高等学校二年)

肩触れて夕立君が連れてきた

平嶋 璃音 (熊本県熊本マリスト学園高等学校三年)

西へ立つ窓越しの君夏の果て

岩崎 麗子 (東京都学習院女子高等科一年)

ぞうきんをせんたくばさみにはさむつゆ

三好 虹夏 (富山県高岡市立伏木小学校二年)

水筒も私と共に汗をかく

冨田 七海 (大分県大分市立大在小学校六年)

十五夜の月を見上げるうさぎかな

濱田 秀太 (熊本県熊本市立北部中学校三年)

風鈴の音に揺れるや昼の月

鄭 優佳 (熊本県真和中学高等学校中二年)

塾帰りてんとう虫がついてくる

坂本 千恵 (福岡県福岡市立照葉中学校一年)

選評

今年もたくさんさんの小学生・中学生・高校生から力作を投句していただきました。その中で興味深かった句をご紹介します。

新聞で見かけし名字草の花 竿本 啓晴

秋も春同様によく分らないものも多いですが、案外人間も同じようなものかもしれません。日常でも顔はよく見るけど名前は知らないなんてことはよくありますね。たまたま新聞で目にした名字からふわっと関連づいた様々なことが秋の野辺のように頭の中に広がっていく。そんなイメージがこの俳句から伝わってきました。

やどかりやいつそ全てを投げ出して 三木陽菜子

やどかりのように殻を捨てて楽になれたら。勉強・部活・友達関係、そして恋。悩んでいる時間は濃密な時間でもあります。ヤドカリは成長する時にあたらしい殻に引越すことがあるそうです。この俳句を作った作者もまさに大きな成長を遂げようとしているのだと思います。

山下しげ人 選

特選

既読無視され炎昼の中にいる

北村 紗希 (熊本県尚綱高等学校三年)

入選

き馬鞍のぼうしとられた風光る

鶴 晴輝 (富山県高岡市立伏木小学校五年)

ありの道なにをいともくずれない

橋本 乃愛 (熊本県荒尾市立中央小学校四年)

ハンカチの赤の席取りさせられて

田口 茉優 (東京都学習院女子高等科一年)

佳作

空ぜんぶきらきら花火ひろがった

下川 桜 (熊本県荒尾市立中央小学校三年)

くやくて汗のグローブ夜みがく

矢澤蒼一郎 (熊本県熊本市立壺川小学校四年)

人はみな誰かとお会い春の風

津留 健人 (熊本県熊本市立北部中学校三年)

句点打つ今年最後の線香花火

元田 万尋 (熊本県熊本大学教育学部附属中学校三年)

帰り道色なき風と野良猫と

丸山 凜子 (熊本県尚綱高等学校三年)

汗流しトロロンボンに息こめる

河江 美空 (熊本県玉名女子高等学校一年)

制服の袖に消えゆく秋の風

平川 響 (佐賀県早稲田佐賀高等学校二年)

風薫るモラトリウムを脱却す

加藤 優陽 (東京都学習院女子高等科一年)

カッターをはじめてつかったなつやすみ

西多 晃都 (埼玉県鴻巣市立鴻巣中央小学校一年)

手紙出すポストに一つせみのから

石橋理香子 (熊本県荒尾市立桜山小学校五年)

選評

純真な心から紡ぎ出された俳句を今回も楽しく選句させて頂きました。その中でも心に残った句です。

「草枕」大賞 小学生の部 ばあちゃんわらうおぞうに三ばい目

それぞれの家で代々受け継がれてきたお雑煮。三杯目のおかわりをしたところで、お祖母ちゃんが笑ったのです。お祖母ちゃんのお顔には孫への優しい眼差しと喜びが溢れています。正月を迎えた幸せな家族の場面が読み手に伝わってきます。

選者特選 既読無視され炎昼の中にいる

日頃はメッセージを送信するとすぐに返信してくれるのに、既読無視されてしまったのです。一体どうしてなのか、何かあったのかと全ての物が歪む炎昼のように激しい心の揺れ動きがストリートに伝わってきます。不安定な現代社会や脆弱な人間関係を象徴するようなメッセージ性の強い一句です。

外国語部門 Non-Japanese Section

草枕大賞 Kusamakura Taisho (Grand Prize)

<p>escombros... en cada piedra cuentos de pena</p>	<p>瓦礫の石 一つ一つに 悲しみの物語</p>	<p>Jocelyn Ajami (United States)</p>
---	----------------------------------	--

地下水都市・熊本賞 Chikasuitoshi・Kumamoto sho
(Kumamoto 'City of Artesian Waters' Haiku Award)

<p>a worried farmer next to dry fields- a month without rain</p>	<p>干上がった畑の傍らで 傷心の農夫 もう一月も雨が降らぬ</p>	<p>Gordana Kurtović (Croatia)</p>
---	--	---------------------------------------

特選 Tokusen (Second Prize)

<p>slanted rain stitching these ashen skies to the fields</p>	<p>雨が灰色の空と 畑を縫い繋げて 斜めに降っている</p>	<p>Maire Morrissey (Ireland)</p>
---	---	--------------------------------------

<p>a presence sensed by the silence it keeps memorial stone</p>	<p>墓石とは 沈黙に守られてある 面影</p>	<p>dl mattila (United States)</p>
---	----------------------------------	---------------------------------------

<p>soundlessly... rain drops draw hieroglyphics</p>	<p>音もなく… 雨だれが太古の象形文字を 描き出す</p>	<p>Lilia Racheva (Bulgaria)</p>
---	--	-------------------------------------

<p>mountain railway station — the steam train leaves behind a fog dragon</p>	<p>登山列車の駅で— 機関車が蒸気の龍を 背後に吐き残してゆく</p>	<p>Capotă Daniela Lăcrămioara (Romania)</p>
--	--	---

<p>bloodshot a reflection of this world in a dragonfly's eyes</p>	<p>トンボの 複眼に映る 流血の世界の影</p>	<p>Arvinder kaur (India)</p>
---	-----------------------------------	----------------------------------

特選 Tokusen (Second Prize)

PASAN LAS NUBES,
LENTAS COMO LA TARDE
Y LOS BUEYES.

雲がゆっくり過ぎる
昼のように
雄牛のように

Ignacio Lombo Montañés
(España)

sol de mediodía
lagartijas deletrean
letras de lápidas

日盛りに
蜥蜴は石碑の
文字を読む

Danny Blackwell
(España)

短夜就長眠
署名冥録列詩仙
投宿酒泉邊

短夜の長き眠りに
閻魔帳にサインして詩仙に名を連ね
酒泉のほとりに宿をとる
(という夢を見た) (短夜や夢は詩仙酒泉に飛ぶ)

石倉秀樹
(日本)

入選 Nyusen (Third Prize)

from nothing
in the clear blue sky
the canary's vibrato

青天の霹靂か、
金糸雀のビブラート

Sam Renda
(South Africa)

The world's heart is sick.
It doesn't need a pacemaker
but a peacemaker.

世界の心が病んでいる
ペースメーカーでなく
ピースメーカーが要る

Lilia Zlatanova Zheleva
(Bulgaria)

abandoned house
the wind entangled
in chimes

廃屋や風に絡まり鳴る風鈴

Maria Tomczak
(Poland)

a brush with fall . . .
seeds cling
to my coat

秋との遭遇...
種が上着にくっついて

Jeffrey Ferrara
(United States)

windy morning
a bee hitchhikes
across the garden

風の吹く朝
蜂がヒッチハイクで庭を渡る

Saumya Bansal
(India)

one last look back
a cresting wave
cups the light

最後の振り返り
盛り上がった波濤が
光を包む

Scott Mason
(United States)

入選 Nyusen (Third Prize)

air strike
a child
shields a teddy bear

空爆に
子どもはテディベアの
身を庇う

Maria-Luisa Stepanek
(Italy)

fireworks
pushing her wheelchair
closer to the sky

花火
彼女の車椅子を押しながら
空に近づいてゆく

Alvin B. Cruz
(Philippines)

silent prayers
suddenly an acorn knocks
on the oak coffin

沈黙の祈り
ふいにドングリがオーク材の柩を
ノックする

Sebastian Chrobak
(Poland)

Ancient city stands
Carved into the rock so deep
Nature's masterpiece

古代都市が深く
岩に彫り込まれて今に生きる
自然の大傑作

Jana Al Husseini
(Turkey)

a ripple on stream
is cradling a withered leaf
with care to carry.

漣が病葉運ぶ小川かな

Anisha Dutta
(India)

armistice —
the soldier wears a flower
in his gun barrel

停戦—
兵士が銃身に
花を装填する

Annette Akkerman
(Netherlands)

wanderlust
following the path
of a snail

放浪癖
蝸牛の道を
辿ってでも

Taylor Jo Kelly
(United Kingdom)

truce —
a bird landed
on a cold gun barrel

休戦—
冷たい銃身に小鳥が
とまっていた

Milenko Sarac
(Montenegro)

alambre de espino
algunos ríos nunca
llegan al mar

鉄条網
海に届かぬ
川もある

Eduard TARA
(România)

Así como llegó
el caracolito se fue
sin darme cuenta.

知らぬ間に
蝸牛は来て
いなくなった

Emmanuel Villalobos Cortez
(México)

入選 Nyusen (Third Prize)

sobre la ropa tendida,
mansamente
la primera nieve del año

干した服の
上にゆっくりと
初雪

Félix Arce
(España)

llovizna de otoño,
hasta el fondo de la casa
el olor de los prados

秋の雨
家の奥まで
牧場の匂い

Carmen Lage
(España)

Duerme el soldado.
La amapola florece
en la trinchera.

兵士眠る
塹壕に咲く
罌粟の花

Antolín Martiñón Martínez
(México)

蝴蝶飛落狗鼻子上
輕撫胸口吊墜

蝶々は犬の鼻にとまった
軽く胸のペンダントに手をやる

See Ai Li
(馬來西亞)

講評 Comment

Kayoko Ijiri 井尻香代子 (Spanish スペイン語)

En la categoría de lengua extranjera del 29º Concurso Internacional “Kusamakura” de Haiku hemos recibido 1,105 entradas de haiku de 67 países de todo el mundo, incluidos Europa, Asia, África, América, el Caribe, Australia y Nueva Zelanda. Para los haikus en inglés, tuvimos más entradas de Estados Unidos, India, Croacia y el Reino Unido, para los haikus en español, tuvimos más de España, Argentina y México, y para los haikus en chino, fueron más de China, Japón y Malasia. El haiku ahora es amado en todo el mundo, trasciende fronteras y diferencias de idioma y conecta al mundo con su espíritu de "consideración a otros".

Lo que me llamó especialmente la atención durante el proceso de selección fue el contraste entre los poemas que apreciaban cambio de estaciones en la naturaleza y los poemas que describían conmovedoramente escenas de guerra y desastre. Cuando observamos las obras premiadas, notamos que todos estos poemas expresan vívidamente el estado actual del mundo dentro de temas diarios y familiares. El haiku ganador del Gran Premio de este año nos impresiona, enfocando cada piedra de los "escombros" que vemos con dolor en el corazón en las pantallas de noticias, e indicando que es nada menos de "cuentos de pena".

In the foreign language category of the 29th International “Kusamakura” Haiku Competition, we received 1,105 haiku entries from 67 countries around the world, including Europe, Asia, Africa, the Americas, the Caribs, Australia, and New Zealand. For instance, we had haikus written in English from the United States, India, Croatia, and the United Kingdom. We also had haikus written in Spanish from Spain, Argentina, and Mexico, and we also had haikus written in Chinese from China, Japan, and Malaysia. Haiku is now accepted with good will all over the world, crossing national boundaries, overcoming the difference of languages and connecting people to their spiritual attitude of “consideration for others.”

What particularly caught my attention in selection was the contrast between haikus which appreciate the seasonal change of nature and haikus which poignantly describe the reality of scenes of war and disaster. When we see the awarded works, we noticed that they vividly indicate the current reality of the world. This year's haiku of Grand Prize impressed us to a great extent. Focusing upon every stone of the “rubble”, we come to know by news with an aching heart that it persuasively suggest us of “tales of woe”.

第29回「草枕」国際俳句大会外国語部門には、ヨーロッパ、アジア、アフリカ、南北アメリカ、カリブ海、オーストラリア、ニュージーランドなど、世界の67カ国から1105句の応募がありました。英語作品では、アメリカ合衆国、インド、クロアチア、イギリスの応募が多く、スペイン語作品では、スペイン、アルゼンチン、メキシコが多く、中国語作品では中国、日本、マレーシアの順でした。俳句はもはや国境も言語の違いも越えて地球全体で愛され、その「存問」の心で地球を結んでいます。

審査の過程で特に印象に残っているのは、自然の移り変りを慈しむように詠んだ句と、戦争や災害の中の情景を切実に描いた句とのコントラストでした。大賞、熊本賞、特選、入賞の作品を見ていただくと、そのどちらの句も、身近な題材の中にこの世界の今が鮮やかに表現されていることに気づきます。今年の「草枕」大賞に選ばれた句は、私たちが胸を痛めながら報道画面で見ている「瓦礫」に焦点を合わせ、その一つ一つが“*cuentos de pena*”（悲しみの物語）と言いつつ切った印象深い作品です。

Morio Nishikawa 西川 盛雄 (English 英語)

Various techniques are employed in literary works including the shortest poetic form of haiku. In the course of conveying poetic message, the poetic dimension in haiku implies the dramatically unified meaning which is coterminous with form. As a matter of recent trend of haiku, it is often featured by the description of the social and psychological reality of the world in addition to the depiction of the beautiful aspects of nature.

The haiku of grand prize is featured by a great success in making effective use of the key word and that of the second grand prize suggests the recent climate crisis of this globe. Other selected works of Tokusen and Nyusen were also excellent enough to create respectively the poetic and linguistic world of haiku. Needless to say, shortness in haiku is the cause of poetic strength and beauty. We wish haikus will be cognitively deepened and a further expansion across the boundaries of nationality.

文芸作品にはいろいろな方策が用いられているが俳句においても例外ではない。詩的メッセージを送る場合、俳句の場合も意味と形式に劇的なまでに切っても切れない関係性がある。最近の傾向として俳句は自然の描写に加え、人間のリアルな社会や心理の描写に特徴づけられている場合が多い。

本年度大賞においては簡潔にキーになる言葉の使用において秀逸であった。次席の作品は最近の地球規模での気候変動の危機を一人の農夫を介して示唆している。特選や入選作品においてもそれぞれに詩的あるいは言語学的に優れているものが多かった。言うまでもなく、俳句は短い故に詩的に力強く美しい。俳句が私たちの認識をさらに深め、国境を越えて進むことを願うばかりである。

Judy Yoneoka 米岡 ジュリ (English 英語)

International Haiku enlighten us. We experience the beauty and wonder of the world through the power of a few chosen words and syllables, which transport us across space and time to novel sights, sounds and smells. We marvel at shared human experiences: the silent presence of a memorial stone, the sparkle of life in a baby's eye, the utter emptiness of losing a loved one. This year, I had the pleasure of reading 771 haiku by 413 authors from 57 different countries. The winners spanned the world, from the US to Romania to India to South Africa to the Philippines.

Once in a while, a powerful haiku can make us instinctively feel empathy, as with the image from Croatia of the worried farmer watching over his field after a rainless month. I know this farmer. He lives next door to me, and he tends the rice paddy that expands out from my window. I saw him gazing at the smallish stalks entwined with weeds, adding water daily and searching the sky for a friendly cloud. I asked him how the rice was growing, and he shook his head and said "We'll see. There are so many weeds." I understood that our common fate is intertwined with this farmer, and with the food that graces our tables if only the climate cooperates. I realized that even in Kumamoto, with its natural artesian waters, our lives still depend on the blessings of rain. Like this, the messages of haiku can bring the world together.

国際俳句は私たちにいろんなことを気づかせてくれます。私たちは、選ばれたいくつかの言葉と音節の力を通して世界の美しさと驚異を体験し、時空を超えて新しい光景、音、匂いへと私たちを運んでくれます。私たちは、記念碑の静かな存在、赤ちゃんの目に宿る命の輝き、愛する人を失った虚無感など、人間の共通する感情に驚かされます。今年、57か国から413人の作家による771句もの俳句を読むことができました。受賞者は、米国、ルーマニア、インド、南アフリカ、フィリピンなど、世界中に広がっています。

時々、力強い俳句に私たちは本能的に共感を覚えます。1か月雨が降らなかった畑を心配そうに見守る農夫を描いたクロアチアの作品がそうです。私はこの農夫を知っています。彼は私の隣に住んでいて、私の窓から広がる田んぼの手入れをしています。雑草が絡まった小さな稲穂を眺めながら、毎日水をやり、空に恵みの雲がないか探しています。稲の生育状況を尋ねると、彼は首を横に振り、「どうでしょう。雑草がたくさんあるので。」と答えました。世界の運命はこの農夫にかかっていること、そして食卓を飾る食べ物が天候次第だと気づきました。天然の湧き水がある熊本でさえも、私たちは雨の恵みがあって生きられているのだと悟りました。このように、俳句のメッセージは世界を一つにすることができるのです。

Isamu Nishimaki 西楨 偉 (Chinese 中国語)

今年曾与中国的漢俳協会聯系，但没有成功，所以参赛作品比去年增加不多。參賽作者居住地区分別為日本・中国・美国・俄羅斯等8個地区，期待今後有更多作者參賽。

參賽作品中，漢俳占多数，其他還有華文俳句，对句漢詩，3行宋詞式，3行自由格律，形式多樣，詩味很濃。

举一作品為例，「短夜就長眠/署名冥録列詩仙/投宿酒泉辺」。「短夜」是夏天的夜晚，愛酒的詩人喝多了，他長眠可能永遠不会醒，但到另外一個世界，名簿上看到李白的名字，這真是有幸，能与詩仙李白同列。更有幸的是，還能投住在酒泉附近，真就不願醒了。可既然是「投宿」，那就不是「永住」，詩人還是回来了罷。拙訳為日語俳句「短夜や夢は詩仙酒泉に飛ぶ」。

応募数を増やすべく、東京の漢詩結社（葛飾吟社）に協力をいただき、中国の漢俳結社に連絡を試みた。しかし、連絡がとれず、結局応募数は微増にとどまった。投句者の在住地域は日本・米国・ロシアなど8つ、決して少なくはない。今後に期待したい。

内訳を形式的にみると、漢俳は24句、2行の華文俳句は4句、2句からなる漢詩調のもの2句、3句の宋詞調のもの2句、3行の自由律3句で、ヴァラエティに富み、いずれの作も味わい深い。

「短夜就長眠/署名冥録列詩仙/投宿酒泉辺」を特選に選んだ。夏の短夜は寝苦しい。酒好きな詩人は一杯飲んで寝た。長き眠りとは、永遠の眠りかもしれない。あの世で記帳すると、李白の名が先にあった。それは目出度い。酒泉は甘肅省の地名だが、泉のごとく酒が湧く思わせる地に泊まるとはさらに目出度い。「投宿」とあるので、永住ではなく冥土から帰還されたに違いない。ユーモアが感じられる一句。「短夜や夢は詩仙酒泉に飛ぶ」、拙訳である。



有名飲食店でも
使われています

くまさんの輝き

いただきます
プロジェクト

KUMASAN NO KAGAYAKI

3,333名にくまさんの輝き割引券 300円分プレゼント!

1月11日(土)~2月28日(金)の期間中、みのるの食堂さん(アミュプラザ内)と日々麴屋さん(山内本店)で1,500円以上お食事をされた方に「くまさんの輝き」300円の割引券をプレゼント!

JAグループ熊本 くまもと売れる米づくり推進本部



詳しくはこちら



社会医療法人ましき会

益城病院

MASHIKI HOSPITAL

〒861-2232 上益城郡益城町馬水 123

☎096-286-3611

精神科・心療内科・小児科(児童思春期)・歯科

認知症・もの忘れ・うつ・不眠
アルコール問題・思春期の相談
児童こころの悩みなど

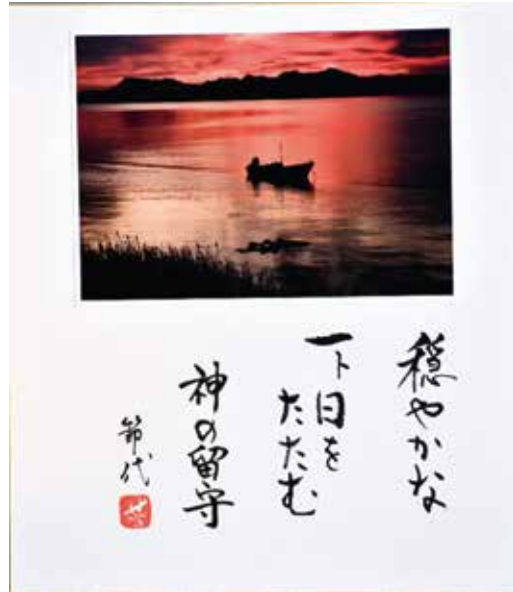
理事長：犬飼 邦明 院長：渡邊 信夫




写真俳句部門

「草枕」大賞

山戸 節代 (熊本県 熊本市)



特選

金子 絹代 (熊本県 天草市)



岩永 和代 (熊本県 熊本市)



優秀賞

木下 保之 (熊本県 熊本市)



前田 節 (広島県 広島市)



志賀 孝子 (熊本県 大津町)





川口 二子 (熊本県 菊池市)



内田 一正 (岡山県 岡山市)



岩永 繁廣 (熊本県 熊本市)



清海 宏 (熊本県 熊本市)



岩下 信興 (熊本県 熊本市)



中村 康子 (熊本県 熊本市)



有田 桜 (10歳) (熊本県 八代市)



高塚 太喜 (長崎県 諫早市)



山田由紀子 (静岡県 静岡市)



本田紀代子 (熊本県 熊本市)

選評

井芹真一郎・穀本 純二

3回目となる写真俳句部門には36人・81点の応募がありました。前回に比べると8割ほどに減少していますが、写真俳句で一番重要な「写真と俳句の響き合い」という点では、理解度が高まった作品が増えました。次に、各作品の選評をまとめました。

【大賞】山戸節代さん 穏やかな一ト日をたたむ神の留守

評|| 静かに暮れていく十一月の海辺の写真ですが、韓紅に染まる空と水面がことのほか美しく表現されています。神が出雲に出かけて留守の間も、静かに穏やかに暮れていく一日。作者の思いが、素直に表現されています。

【特選】金子絹代さん 祈りから始まる島の年暮るる

評|| 写真は、日没を迎えようとする天草・崎津湾です。小さくしか写っていませんが、ここにはマリア像があり祈りの場でもあります。島の一年を優しく見つめた作品です。「島の」は「島や」にすれば、もう少し分かりやすかったかもしれません。

【特選】岩永和代さん 芽吹く時八百年の力かな

評|| まず写真でドーンと大樹の根を見せて、何かな?と思わせます。句を拝見して、なるほど八百年も芽吹きを繰り返してきた幹なのだと思得させます。響き合いが見事だけに、写真の濃度が少し明るく、惜しまれます。

【優秀賞】木下保之さん 村中が奮い立ちたる秋祭

評|| 村の年に一度の秋祭りです。降り注ぐ火花の下で舞われる勇壮な獅子舞に、むらのエネルギーを感じます。

【優秀賞】前田節さん 広島に玻璃のなき窓秋の風

評|| 写真は原爆ドームですが、秋風を据えたことで寂寥感の漂う作品となりました。

【優秀賞】志賀孝子さん 横丁の夜店昭和の灯をともし

評|| 昭和もすっかり遠くなりましたが、作者は子どもころの懐かしい時代を想起されたのでしょうか。哀愁を感じます。

〔入選〕

内田一正さん 木漏日のさざ波となる若葉風

評|| 木漏れ日が、さざ波となる表現が如何にも涼しそうですね。

川口二子さん 緑蔭にしばし忘るる濁世かな

評|| 自然に浸る開放感が、素直に伝わってきます。

岩下信興さん 友逝きて色なき風となりにけり

評|| 色なき風(秋風)に寂しさが漂っています。

清海宏さん この湖の遥か彼方にある秋思

評|| 写真は美しいですが、「秋思」が伝わりにくい感じます。

岩永繁廣さん 湯の街に昭和の音色秋の昼

評|| 写真は目を引きませんが、「秋の昼」がどうでしょう。うか。

有田桜さん 聞いてみて近づいてくる水の音

評|| 写真は面白いですが、「波の音」の方が良かったかも。

中村康子さん 谷紅葉歩幅合せて夫婦の日

評|| 悪くないですが、写真と俳句が近すぎるかもしれません。

本田紀代子さん 雁の音や父の忌の膳片付ける

評|| 印象的な写真ですが、もっと詩心が欲しいところですね。

山田由紀子さん 身を潜めやり過ごしをる酷暑かな

評|| 響き合いはいいのですが、写真の力強さが不足しています。

高塚太喜さん 老骨をあおぐ団扇の絵柄みる

評|| 俳句をもう少し格好良くすれば、写真も活きます。

友田皮ふ科医院

院長 友田哲郎

〒 861-1112 熊本県合志市幾久富 1909-964 ☎096-248-6211



当日投句部門

「草枕」大賞

小鳥来る旧居の庭の投句箱

伊藤 広子 (熊本県 熊本市)

中村汀女賞

大阿蘇の夕日案山子と背負けり

池田いずみ (熊本県 熊本市)

地下水都市・熊本賞

名月を担ぎ上げたる天守かな

鎌田 順子 (熊本県 宇土市)

(一財)熊本市文化スポーツ財団賞

産着干す指の先まで秋日和

古賀久美子 (熊本県 熊本市)

種田山頭火賞

柿を剥く夕日くるくる廻しては

木村佐恵子 (熊本県 熊本市)

熊本の銘菓賞

黄落の反射二の丸三の丸

田中昭三八 (熊本県 宇城市)

岩岡 中正 選

特選

一村の静かに暮るる柿すだれ

中川 裕子 (熊本県 宇土市)

入選

歩すことは考へること冬に入る

山下さと子 (熊本県 八代市)

枯蓮の水美しく透きとほる

高橋 満子 (熊本県 熊本市)

赤牛の膝折り眠る良夜かな

田代 幸子 (熊本県 宇土市)

佳作

稲車千石橋を渡りけり

渡邊佳代子 (熊本県 菊陽町)

ふる里は蓮根掘るころ父を恋ふ

吾亦紅 (大分県 国東市)

祭馬阿蘇の牧野に戻りけり

境 真木子 (熊本県 熊本市)

冬百舌やひしと噛み合ふ城の石

安田真葉子 (熊本県 熊本市)

ゆるぎなき天守の肩に今日の月

楠本美奈子 (熊本県 甲佐町)

選評

伊藤広子さんの「小鳥来る」の句には、「小鳥」と「投句箱」の取り合わせに、人と自然の楽しい「存問」(ぞんもん)があります。池田いずみさんの句の大らかさ、鎌田順子さんの句のユーモア、古賀久美子さんの句のいのちの豊かさ、木村佐恵子さんの句の明快さ、田中昭三八さんの句の写生の確かさと表現の力強さと、受賞句はどれも個性あふれるものでした。

私の特選の中川裕子さんの句には、「一村」の平穏な日常が描かれていて、しみじみとした郷愁を覚えました。人の暮らしの原風景のようなものです。入選の山下さと子さんの句は決して理屈めいてはいなくて、静かに自分の体でつくった句で、一句の呼吸が良い。高橋満子さんの句には冬の水の透明感があり、田代幸子さんの句は、「膝折り」に注目した写生眼にすぐれています。佳作の句は確かな写生をふまえて、それぞれの「物語」がありました。

小川 晴子 選

特選

稲筵記紀に始まる阿蘇郡

上村 孝子 (熊本県 熊本市)

入選

城垣の石にも故郷草紅葉
鯨の尾のぴんと撥ねたる城小春
黄落や夕日にまみれ牛帰る

松本オハナ (熊本県 熊本市)
坂本あかり (熊本県 熊本市)
力 幸子 (熊本県 菊陽町)

佳作

晴れやかに嘘を吐くひと杜鵑草
肥後の地にどつしり根付く茶梅かな
水底の日の高さまで潜る鳩
修復を日が見てゐる石路の花
冬の夜や鑼の音高く古筆笥

上田 輝子 (熊本県 菊陽町)
梅津眞佐子 (熊本県 熊本市)
廣瀬 守世 (熊本県 熊本市)
松本よし枝 (熊本県 熊本市)
梶山 純子 (熊本県 熊本市)

選評

大会の当日は午前九時半から当日投句を受け付け、約五〇〇句が投句されました。どの句も意欲に満ち溢れた作品です。私は次の三句を特選に頂きました。

中村汀女賞

大阿蘇の夕日案山子と背負けり

池田いずみ

雄大な阿蘇の夕日は素晴らしいことと思えます。案山子は毎日しつかり仕事をしてくれているようです。夕日の輝きと実りを迎える田畑の様子が目に浮かび、心が大きくなります。

種田山頭火賞

柿を剥く夕日くるくる廻しては

木村佐恵子

美味しそうな柿の色を夕日に見立てているのが見事です。手のひらの夕日のような柿を廻して剥くなんて素敵です。

小川晴子特選

稲筵記紀に始まる阿蘇郡

上村 孝子

「記紀に始まる」の表現に農業の誇りを感じました。「稲筵」に広がる作物に感謝と喜びがあります。

西口裕美子 選

特選

サイフォンのあぶく一氣に神無月

森山 榮子 (宮崎県 延岡市)

入選

故山てふ地軸の真中鳥帰る
末枯るるものにやさしき川の音
長き夜に長き命の置きどころ

高峰 武 (熊本県 熊本市)
堀田 毬子 (熊本県 熊本市)
藤川 和男 (熊本県 熊本市)

佳作

立冬やちよつと闘志のやうなもの
衣被兄弟にある出来不出来
今日やけに野良猫なつく漱石忌
くしやみして家ごと夫婦老いている
しぐるるや地層の縞の大曲り

宗像 和子 (熊本県 熊本市)
土屋 芳己 (熊本県 菊陽町)
甲斐 文恵 (熊本県 熊本市)
畑田 孝子 (熊本県 美里町)
山下しげ人 (熊本県 八代市)

選評

様々な個性が一斉に声を上げているような当日投句。その中から選句するのは悩ましくも楽しい時間でした。

産着干す指の先まで秋日和

よく晴れた秋空の下、産着を干す(今の私)をひと息に詠んでいます。澄み渡る空に向かって「ああ、幸せ！」と声を発せずにはいられない。指の先に至るまで身体中が悦びに満ちています。

サイフォンのあぶく一氣に神無月

サイフォンでコーヒーを淹れる。水が沸騰したかと思うとそれは一氣に粉の入った上部に押し上げられ、一瞬の間を置いていい香りが広がります。作者はまさに今、神無月が訪れたと実感しているのです。寒さに向かう季節を、五感で迎え入れている様が見える一句。

故山てふ地軸の真中鳥帰る

此処が我が故郷。自分を支え続ける場所。今、作者はかの地を踏み締め、青雲の志を抱いたかつての自分をふり返る。自分の帰る場所を知る鳥たちを眺めながら。

西村 和子 選

特選

くまモンの迎へるロビー冬暖

三川 幸子 (岡山県 岡山市)

入選

巻き戻す家族の時間七五三

藤本 淳子 (熊本県 益城町)

菊薫る仏間玄関台所

渡邊 宣子 (熊本県 熊本市)

立てて売るフランスパンや天高し

西村 孝子 (熊本県 熊本市)

佳作

此の後も茶飲み友達石路の花

佐竹 佐介 (熊本県 熊本市)

きらめきは沖はるかまで神渡

永村 典子 (熊本県 熊本市)

白壁に影おく柿の紅葉かな

工藤 靖子 (熊本県 熊本市)

黄落の真口中で弾くピアノ

平川みどり (熊本県 南関町)

天涯へ光を放つ花芒

吉田由利子 (熊本県 宇城市)

選評

当日投句部門では、

くまモンの迎へるロビー冬暖

に注目した。地元の人たちには見慣れた光景かも知れないが、他所者にとつては嬉しい歓迎。御当地キャラクターの先駆けの「くまモン」の、本物が出迎えてくれるとは、心が温もる。「冬暖(ふゆあたたか)の季語がそれを語っている。

医療法人博麗会



のぐち皮心科

皮膚科
形成外科



理事長 野口 博光
院長 久保 正英



〒861-3106

熊本県上益城郡嘉島町上島 964-1
(嘉島町役場斜め前)

TEL.096-237-4112

FAX.096-237-4113

URL. <https://nogcli.jp/>

診療時間	月	火	水	木	金	土
9:00 ~ 12:30	●	●	●	●	●	●
14:30 ~ 18:00	●	●	●	休	●	休



令和五年 第二十四期くまもと俳句ポスト

第二十四期開函

「ホトトギス」同人 山下 しげ人 選

特選

木石のかへす初冬の光かな 香川県丸亀市 三好 康夫

【講評】

作者は、初冬の日ざしを浴びて柔らかかさと幽かな温かさを味わい安寧に浸っていたのでしょうか。目の前にある木や石が初冬の日ざしに応えるように光を放っている様を見たとき、木石にも情があり、自分と同じような命があることを感じ取ったのです。

寄り添い、心を通わし連帯してゆくことが戦争や災害の被害から立ち直る一歩だとするならば、そのことを示唆してくれているような生きる力の根源となる一句とも思われます。

わが輩通り賞

水底に映る波紋や散紅葉 熊本県熊本市 芥川 卓

入選

漱石居産湯の跡の蟬しぐれ 熊本県熊本市 嶋田 光子
雷鳴りて黒猫ぬつと去りにけり 大阪府高槻市 木村 輝
漱石の思い出闊歩肥後小春 熊本県熊本市 佐藤 誠吾

佳作

阿蘇九重つなぐ芒の風の波 熊本県熊本市 山崎 綾子
目もくれぬ臭木の花の咲きにけり 福岡県大牟田市 前原八寿之
岸離れ海の蜻蛉となりゆけり 福岡県大牟田市 藤好 信子
漱石に思いを馳せる月見会 熊本県天草市 長野 真理
冬の朝神社の鈴の小さく鳴る 熊本県熊本市 中村 和徳
雪の降る漁村地蔵に毛糸帽 熊本県熊本市 貴田 雄介
ひとり居て大の字に寝る夏座敷 熊本県熊本市 波野 壽代
月あかり風に流れる笛の音 熊本県熊本市 岡野 俊博
庭一面木々がたくさん涼しいな 熊本県熊本市 青木梨愛来
武者返し挑みのけ反る春の空 神奈川県小田原市 井上 靖

開函日 令和五年十二月三十一日
投句総数 百四十七句
市外 七十七句
市内 七十句

令和六年 第二十五期くまもと俳句ポスト

第二十五期開函

俳誌「阿蘇」主宰 岩岡 中正 選

特選

漱石もハーンも知らぬ炎暑かな 熊本県熊本市 柳田 孝裕

【講評】

「炎暑」という季語は今日、地球温暖化のため、ますます実感を増しています。今日この炎暑を、「漱石もハーンも知らぬ」ほどだと、実感をこめて詠んでいるところが正直な句です。さらに、このように今昔の暑さを比較することで、二人の文豪たちを身近に感じている作者です。

わが輩通り賞

花散らす鳥の来てゐる古戦場 熊本県熊本市 宇野木邦子

入選

あはあはと八雲書齋に春日差 兵庫県神戸市 河原 真紀
富士と池梅の向こうにけぶるなり 東京都三鷹市 加藤真希子
春の雨傘差しかけて鯉の餌 熊本県熊本市 貴田 雄介

佳作

春の水飲みて鴉の濡羽色 熊本県熊本市 鶴田 信吾
漱石の館静かな初夏の香に 熊本県菊池郡 佐賀 久子
夜桜の散り行くなかに熊本城 熊本県熊本市 野田 有隆
海青き殉教の島枇杷熟れる 熊本県熊本市 山崎 綾子
紅葉見の帰り立ち寄る出で湯かな 熊本県熊本市 坂口美穂子
桜舞ふ田原坂惜別の時 熊本県熊本市 徳永恵美子
自転車が残り香揺らす麦畑 熊本県上益城郡 安部真菜美
早春の城マラソンの平和かな 熊本県熊本市 中村 和徳

開函日 令和六年六月三十日
投句総数 百七十一句
市外 百句
市内 七十一句

第29回「草枕」国際俳句大会

日時：令和6年11月16日(土) 13:00～16:00

会場：市民会館シアーズホーム夢ホール（熊本市市民会館）



当日投句部門（午前の投句風景）



西村和子氏講演会



ジュニア部門表彰式



外国語部門大賞（Jocelyn Ajami, アメリカ）



受賞者記念写真

事前投句一般部門・インターネット投句部門 応募者都道府県別集計

県別	第26回 (R3年)				第27回 (R4年)				第28回 (R5年)				第29回 (R6年)			
	事前投句 一般部門		インターネット 投句部門		事前投句 一般部門		インターネット 投句部門		事前投句 一般部門		インターネット 投句部門		事前投句 一般部門		インターネット 投句部門	
	人数	句数	人数	句数	人数	句数	人数	句数	人数	句数	人数	句数	人数	句数	人数	句数
北海道	4	8	1	2	3	16			2	4	1	2	5	12		
青森県															1	2
秋田県					1	4			1	2						
岩手県	1	4			1	2			1	4			2	4		
山形県	2	6			1	2	1	2	1	2	1	2			1	1
宮城県	2	6			1	2			1	2			1	2		
福島県									1	2	1	2	1	2	3	6
茨城県	1	2	2	4	1	2			1	4			1	4	1	2
栃木県					2	8	3	6	4	14	2	4	2	4	2	3
群馬県	1	2	2	4	2	4	3	5	4	16	2	4	3	10	2	4
埼玉県	10	22	5	9	12	34	13	26	11	24	4	8	7	22	4	8
千葉県	10	42	2	4	8	32	4	8	8	22	6	12	6	18	7	13
東京都	30	110	10	20	47	162	11	22	48	150	16	31	45	144	32	58
神奈川県	18	60	4	8	24	74	6	11	28	94	4	8	24	70	13	24
山梨県							2	3							1	2
長野県	2	4			2	4	1	2	1	2	1	2			2	4
新潟県							4	8								
富山県							1	2			1	2			2	4
石川県	1	2					1	2			1	2	1	2	2	4
福井県							1	2								
静岡県	7	28	2	4	6	34	4	8	8	32	1	2	6	20	1	2
岐阜県	1	2	1	2	3	8	1	2	2	4	1	2	1	2	3	6
愛知県	8	20	2	4	8	18	11	21	6	14	2	4	5	12	5	8
三重県	4	8	1	2	2	6	3	6	1	4			3	6	5	10
滋賀県	2	6					2	4	3	8	3	6	1	2	2	4
大阪府	7	18	2	4	5	20	3	6	9	24	1	2	12	32	4	8
奈良県	1	2	1	2	1	2	1	2	3	8	1	2	2	6	2	4
和歌山県			1	2			2	3					2	6	3	6
京都府	1	2	1	2	3	18			3	8	4	6	11	52	3	5
兵庫県	10	26	2	4	12	30	3	6	9	20	4	8	12	30	9	18
岡山県	2	22	2	4	4	24	2	4	8	58	2	4	4	22	2	3
島根県	1	4			1	2			2	4	1	2			1	2
広島県	2	8	1	2	3	10	3	6	4	14	3	5	4	18	2	4
山口県	7	24	1	2	4	14	1	2	3	10			3	16	1	1
香川県							2	4					1	2	1	1
愛媛県	3	8			4	10			3	8	2	4	6	18		
徳島県	1	2			1	2			2	4	1	2	1	2		
高知県	1	6			1	2										
福岡県	45	194	12	22	39	162	9	17	37	150	11	22	40	164	17	31
佐賀県	7	22			3	12			2	6	1	2	3	10		
長崎県	8	22	1	2	1	2	6	12	4	8	3	6	7	20	4	7
熊本県	271	1,026	78	149	278	1,054	72	143	253	960	69	135	290	1,026	71	137
大分県	18	68	5	10	13	52	1	2	11	42	3	6	12	52	2	4
宮崎県	9	40			10	44	2	4	9	32	1	2	9	46		
鹿児島県	7	34			8	28	1	2	7	28	3	6	5	20	4	8
沖縄県	2	12			3	12			2	8			2	8	1	2
海外	1	4	4	6			3	6	1	2	8	16			7	12
計	508	1,876	143	274	518	1,912	183	359	504	1,798	165	323	540	1,886	223	418

外国語部門 応募者国別集計

国名	第27回 (R4年)				第28回 (R5年)				第29回 (R6年)				国名	第27回 (R4年)				第28回 (R5年)				第29回 (R6年)					
	英語	西語	中文	合計	英語	西語	中文	合計	英語	西語	中文	合計		英語	西語	中文	合計	英語	西語	中文	合計	英語	西語	中文	合計		
1	アメリカ合衆国	75	4	79	117	1		118	85	1	1	87	51	シンガポール			0	2		2	1			1			
2	スペイン	1	64	65	2	46	48	1	61		62	52	バングラデシュ			0	2		2	1			1				
3	アルゼンチン		21	21		22	22	1	41		42	53	ギリシャ	3		3	1		1	1			1				
4	インド	49		49	39		39	38			38	54	ポルトガル			0		1	1		1		1				
5	日本	17		18	20		20	22		5	27	55	エジプト			0	1		1	1			1				
6	イギリス	27	1	29	47	1	48	24	1		25	56	韓国			0	1		1	1			1				
7	クロアチア	20		20	33		33	25			25	57	プエルトリコ			0		1	1		1		1				
8	メキシコ		24	24	1	14	15	1	21		22	58	アルジェリア			0	1		1	1			1				
9	ポーランド	10		10	16		16	14	1		15	59	パラグアイ			0		1	1	1			1				
10	マレーシア			1	4		2	6	12		2	14	60	スウェーデン			0		0	1			1				
11	セルビア	6		6	4		4	14			14	61	チェコ			0		0	1				1				
12	ブルガリア	15		15	11		11	13			13	62	オーストリア			0		0	1				1				
13	ニュージーランド	8		8	10		10	13			13	63	ラトビア			0		0	1				1				
14	フィリピン	13		13	26		26	12			12	64	ザンビア			0		0	1				1				
15	ルーマニア	20	1	21	22	1	23	11	1		12	65	ボリビア			0		0		1			1				
16	カナダ	6		6	13		14	10		1	11	66	オマーン			0		0	1				1				
17	オーストラリア	11		11	8		8	10		1	11	67	アンゴラ			0		0		1			1				
18	グアム(USA)※	37		38	42		42	10			10	68	コスタリカ			0		0		1			1				
19	ドイツ	5	1	6	9	1	10	7	3		10	69	南スーダン			0		0	1				1				
20	イタリア	14		14	8		8	8	1		9	70	台湾	1		1	2	2	1	3			0				
21	中国			1			9	9	1		6	7	71	スロベニア	2		2	1		1			0				
22	ロシア	5	1	7	3		4	5		1	6	72	キプロス	2		2	1		1				0				
23	オランダ	3		3	3		3	6			6	73	ウクライナ	1		1	1		1				0				
24	キューバ		3	3		2	2	1	5		6	74	タイ	1		1	1		1				0				
25	ナイジェリア	4		4	5		5	5			5	75	イスラエル	1		1	1		1				0				
26	モンテネグロ	2		2	2		2	5			5	76	アゼルバイジャン	1		1	1		1				0				
27	イラン			0	2		2	5			5	77	ネパール			0	1		1				0				
28	コロンビア	1	4	5		1	1	2	3		5	78	フィンランド			0	1		1				0				
29	インドネシア	5		5	4		4	4			4	79	バルバドス			0	1		1				0				
30	アイルランド	3		3	3		3	4			4	80	モロッコ			0	1		1				0				
31	ハンガリー			0	3		3	4			4	81	ケニア			0	1		1				0				
32	チリ		7	7		5	5		3		3	82	ウズベキスタン			0	1		1				0				
33	トルコ	2		2	3		3	3			3	83	ジンバブエ			0	1		1				0				
34	ペルー		2	2		2	2		3		3	84	リトアニア			0	1		1				0				
35	ノルウェー	1		1	1		1	3			3	85	ジャマイカ	3		3		0					0				
36	南アフリカ	1		1			0	3			3	86	ドミニカ		3	3		0					0				
37	ブラジル	7	1	8	5	9	14	1	1		2	87	チュニジア	1		1		0					0				
38	ウルグアイ		1	1		6	6		2		2	88	ニカラグア		1	1		0					0				
39	スリランカ	1		1	4		4	2			2	89	ジョージア	1		1		0					0				
40	ベルギー	2		2	2		2	2			2	90	エクアドル		1	1		0					0				
41	ベネズエラ		2	2		2	2		2		2	91	サウジアラビア	1		1		0					0				
42	ボスニア・ヘルツェゴビナ	1		1	2		2	2			2	92	カンボジア	1		1		0					0				
43	香港※	2		2	1		1	2			2	93	エルサルバドル			0		0					0				
44	ベトナム	1		1	1		1	2			2	94	スロバキア			0		0					0				
45	ガーナ			0	1		1	1		1	2	95	ベラルーシ			0		0					0				
46	アラブ首長国連邦			0	1		1	2			2	96	ミャンマー			0		0					0				
47	スイス	2		2	3		3	1			1	97	セントルシア			0		0					0				
48	フランス	1	1	2	1	1	2		1		1	応募者数合計				400	143	7	550	510	117	14	641	413	156	18	568
49	パキスタン	2		2	2		2	1			1	応募句数				752	278	12	1042	952	225	27	1204	771	298	36	1105
50	マルタ	1		1	2		2	1			1	国数				50	19	7	※60	62	18	5	※71	57	22	8	※67

※グアムは米国に、香港は中国に数えた

第29回「草枕」国際俳句大会報告

第29回「草枕」国際俳句大会の表彰式は2024年11月16日、熊本市中央区の市民会館シアーズホーム夢ホールに約250人が参加して行われました。

各部門の実績は別表の通りですが、全体では3,149人から6,495句が寄せられました。なかでも外国語部門は67の国・地域から投句がありました。国・地域の内訳をみますと、国際的な俳句熱の高まりを実感します。国境を超える「HAIKU」の力は、今や「地球俳句」という言葉も生み出すような勢いです。この流れをさらにどう膨らませていくか、事務局としてもいろいろ議論したいと思っております。

29回大会の講師には「知音」代表で俳人協会副会長の西村和子氏をお迎えしました。西村氏の演題は「季語で読む源氏物語」。NHK大河ドラマで「光る君へ」が放送中ということもあって実にタイムリーな講演となりました。源氏物語の中に埋め込まれた日本の四季の移ろいを丁寧に解説された西村さんですが、講演では主人公を「光る君」などと呼ばれ、自身が重ねてきた時間も合わせながら会場を沸かせました。

夏目漱石の来熊100年を記念して始まった大会も2025年には30回の節目の大会を迎えます。各分野の方のお知恵も借りながらさらに充実した開かれた大会にしたいと思っております。ご協力をよろしくお願いたします。今回の「玉手箱」には、外国語部門の国別と事前投句一般部門・インターネット投句部門の応募者都道府県別集計を初めて掲載しました。ご参照ください。

第29回「草枕」国際俳句大会実行委員会事務局長 高峰 武

部 門	応募者(人)	応募作品(句数)
事前投句一般部門	540	1,886
インターネット投句部門	223	418
ジュニア部門	小学校	190
	中学校	870
	高校生及び18歳以下	552
	(ジュニア部門合計)	(1,612)
外国語部門	587(67ヶ国)	1,105
当日投句部門	151	538
写真俳句部門	36	81
応募 合計	3,149	6,495



飲酒は20歳になってから。

本伝 東肥赤酒

芳醇純米酒 瑞鷹

伝統と風土が織りなす匠の酒

江戸時代末期
肥後の国川尻で
酒造りを始めて
やがて百六十年

清酒「瑞鷹」
「東肥赤酒」

くまもとの水と
くまもとの米
伝統のある
老舗の技で醸し出す
くまもとの地酒です

こころのうるおい、醸します。

瑞鷹株式会社
熊本市南区川尻四丁目6-67



**健康と！
マイルが！
手に入る！**

JAL Wellness & Travel
毎日の何気ない歩数でマイルが手に入る。
今日の歩数からカウント開始！

約半数が毎月/
300~1,000マイル獲得！

入会した方の**90%**が継続利用！

JALウェルネス&トラベル



世界の子どもたちがハイクを詠んだ！



JAL FOUNDATION
公益財団法人JAL財団



JAL 財団は 1990 年の創立以来、世界の 15 歳以下の子どもを対象とした「世界子どもハイクコンテスト」を 2 年に一度開催しています。これまでに、約 60 の国・地域から 76 万以上の作品が寄せられました。作品は各国の言葉により 3 行詩(=ハイク)と絵で構成されています。優秀作品は、ウェブサイト「世界子どもハイクコンテスト特設ページ」にてご覧いただくことができます。ぜひ、ご鑑賞ください。
<https://www.jal-foundation.or.jp/haiku-contest/contest/2023/>

世界子どもハイクコンテスト受賞作品



寿量グループ
社会医療法人 寿量会

KUMAMOTO KINOH HOSPITAL
熊本機能病院
(財)日本医療機能評価機構認定医療機関

北キャンパス 〒860-8518 熊本市北区山室6丁目8番1号 TEL.096-345-8111 FAX.096-345-8188

南キャンパス 〒861-4125 熊本市南区奥古閑町4375-3 TEL.096-223-2175 FAX.096-223-2103

社会福祉法人 寿量会 南キャンパス 〒861-4125 熊本市南区奥古閑町4375-1 TEL.096-223-0533 FAX.096-223-2329

24時間救急

併設施設

附設施設

診療科

総病床数 395床

関連施設

有明海リハビリテーションクリニック

特別養護老人ホーム

特別養護老人ホーム

ケアハウス

デイサービス

小規模多機能型居宅介護

北キャンパス

南キャンパス

南キャンパス

天寿園 (介護老人福祉施設)

天寿園 青葉 (地域密着型介護老人福祉施設)

天寿園 NeO (地域密着型介護老人福祉施設)

宝光庵 ○グループホーム 虹の家

今町ホーム

銀座通りハウス

第29回「草枕」国際俳句大会

- 〈主催〉「草枕」国際俳句大会実行委員会、熊本市
〈共催〉熊本県文化協会、熊本日日新聞社、(一財)熊本市文化スポーツ財団
〈協賛〉日本航空(株)、瑞鷹(株)、(公財)JAL財団、JAグループ/くまもと売れる米づくり推進本部、
(株)お菓子の香梅、福井市、松山市、社会医療法人寿量会熊本機能病院、
社会医療法人ましき会益城病院、医療法人博麗会のぐち皮ふ科、友田皮ふ科医院
〈後援〉(一社)現代俳句協会、(公社)日本伝統俳句協会、(公社)俳人協会、国際俳句協会、
俳句ユネスコ無形文化遺産登録推進協議会、(一財)熊本市国際交流振興事業団、
RKK、TKU、KKT、KAB、FMK、FM791、熊本県、熊本県教育委員会、熊本市教育委員会、
くまもと漱石倶楽部

「草枕」の玉手箱

～入賞作品集～

令和7年(2025年)2月発行

編集・発行/「草枕」国際俳句大会実行委員会事務局

〒862-0942 熊本市東区江津2-28-77 高峰武方

Tel・Fax：096-364-4510

Email：kusamakura-haiku@outlook.jp

草枕ホームページ： <http://kusamakura-haiku.jp/>